

マリンビジョンNewsは、サロマ湖地域の1市2町で構成するマリンビジョン協議会が、自然環境と共生した明るい未来を創造する漁村づくりに向けた活動を紹介する広報紙です。

◆ ホタテ稚貝放流

常呂・佐呂間・湧別の各漁業協同組合は、漁場を畑のように4つに区切り、1年ごとに海域をずらしながら4年周期でホタテ成貝の漁獲とホタテ稚貝の放流を繰り返す「四輪採制」でホタテ漁業を行なっています。

今年のホタテ稚貝放流は、常呂・佐呂間漁協が5月18日から、湧別漁協が20日から始まり、最終は28日まで行われました。サロマ湖で1年間養殖して今春4～5cm程度までに成長したホタテ稚貝を専用のサンテナー籠に移してからトラックで運び、外海放流作業船に積み替えられた後、オホーツク海の沖合に放流します。期間中は3漁協全体で約6億5千万粒のホタテ稚貝を放流しました。



【サロマ湖での稚貝作業】



【外海放流作業船への積込作業】

昨年は、サロマ湖第2湖口周辺の漂砂堆積の影響により第2湖口を通航できなかったため、常呂漁協の外海放流作業船は第1湖口を迂回する放流作業でしたが、今年は第4種サロマ湖漁港の工事を所管する北海道開発局網走開発建設部による第2湖口の漂砂堆積の原因究明と、今後の抜本的な対策を検討するための浚渫工事により航路水深が確保され、第2湖口を航行しての稚貝放流作業が実施できました。関係機関のご尽力によりサロマ湖地域の漁業が支えられています。



【写真】

サロマ湖第2湖口からオホーツク海に向かう外海放流作業船「ところ丸」



◆ 外海ホタテ本操業

常呂・佐呂間・湧別の各漁業協同組合では6月初旬から外海ホタテ漁の本操業が始まりました。

外海ホタテ漁は、海明けの春操業で前年区画に獲り残したホタテを漁獲してから5月に同区画へ稚貝を放流し、6月からは新しい区画での本操業となります。

今年は、オホーツク海域でホタテの餌となるクロロフィル量が高水準となり、昨年の低歩留まりから一転し、例年になく高歩留まりで豊漁が期待されています。

6月末時点の3漁協全体での漁獲量は16,742トンで前年同期の約10%増となっています。



【外海ホタテの荷揚作業(湧別漁港)】

◆ 森から海へ。植樹運動

「豊かな森づくりが、豊かな海づくりに繋がる。山は恋人、川は仲人」の喩えがあるように、森から川を通じてサロマ湖やオホーツク海に様々な栄養分が供給されていて、植樹はサロマ湖やオホーツク海を良好な漁場環境に保つことから、毎年、常呂・佐呂間・湧別の各漁業協同組合が植樹運動を実施しています。

6月4日に佐呂間漁協がミズナラを400本、9日に常呂漁協がエゾノコリンゴを300本、11日に湧別漁協がヤチダモなど1000本、合計1,700本を植樹しました。



【佐呂間漁協の植樹祭】



【常呂漁協の植樹祭】



【湧別漁協の植樹祭】

植樹祭には漁協組合員、青年部、女性部、漁協役職員など総勢454名が参加し、心地よい汗をかきながら1本ずつ丁寧に植えていました。



マリンビジョン21
MARINE VISION 21

発行 サロマ湖地域マリンビジョン協議会 2013. 7. 10
編集 サロマ湖地域マリンビジョン協議会事務局広報担当
〒099-6404 湧別町栄町112番地の1
湧別町総合支所産業振興課水産林務係
Tel 01586-5-3763 ・Fax 01586-5-2283
Mail sangyo@town.yubetsu.lg.jp

